

# 25 大内義弘

天下無双の名将、  
將軍義満に挑む

1356~1399

官位 従四位上

菩提寺 香積寺

墓所 本行寺（堺市）

父弘世と対立した義弘は、幕府の意向に従い九州探題今川了俊による九州平定を支援、功績により豊前守護に任じられました。弟満弘との交戦の末和解、家督を相続します。

將軍足利義満は地域勢力への権力誇示・懐柔を意図した諸国遊覧の一環として1389年厳島を

参詣、その後周防国を訪れ、下松や三田尻で義弘の歓待を受けました。義弘は帰国する一行に随行して京へ上り、幕府中央政治の一員となります。

## 明德の乱

義満は強大化した大名の勢力削減を企て、山陰を中心に11か国の領国をもつ山名氏に対して、内紛に乗じた一族分断策を講じます。義満の挑発を機に山名氏清・満幸方は反乱を起こしました。義弘は幕府軍陣営の前線・二条大宮（今の二条城付近）に布陣、激しい戦闘の中、長刀を振るって応戦しました。義弘は戦功により山名氏の旧領国和泉（大阪府南部）・紀伊（和歌山県・三重県南部）の守護職を与えられたことにより、堺も握り、瀬戸内海交通路の東西の要衝を押え、対外貿易の基盤をつくりました。

## 南北朝の合一

南北朝和睦の機運が醸成されるなか、かつて大内氏が南朝に属した因縁をもち、和泉・紀伊国が南朝勢力に隣接した地の利から、南北朝合体交渉の影の立役者となります。三種の神器を南



南北朝講和の舞台大覚寺（京都市）



大内義弘像（山口県立山口博物館蔵）

朝（吉野）から北朝（京都）に譲渡する際、義弘が護衛にあたりました。翌年、將軍家一族に准じるとの御内書を授かります。

## 倭寇の禁圧

14世紀後半東アジア各地に出現した倭寇は、密貿易や略奪・拉致を繰り返しました。倭寇に

悩まされた高麗・朝鮮王朝は、幕府や有力大名に禁圧を求めました。倭寇の根拠地は少弐氏が支配する北部九州の地で、義弘が九州平定のため少弐氏を退けると朝鮮王朝から「倭寇制圧」とみなされたようで評価を高めます。

## 朝鮮交易

対朝交易を独占していた今川了俊が九州探題を解任されると、義弘は朝鮮王朝との活発な交易を開始します。さらに自分は百済王の子孫であるとして証明書とかつての百済の土地を求めました。この大胆な要求に朝鮮側も当惑し、義弘の死によってうやむやになるものの、大内氏が百済王族の出であるため、朝鮮側も親近感を持ち、信頼できるとの認識につながっていきます。

倭寇禁圧や朝鮮使節の護送、その強大さから、教弘の代には通信符が与えられるなど優遇され、大蔵経の輸入など独自の交易を展開しました。

## 応永の乱

義満が北山第（のちの金閣寺）の造営工事を諸大名に命じたところ、義弘だけは「武士は弓矢を業とし、土木に使役すべきではない」と拒みました。「弱きを挫き強きを助ける」義満への不満から、

政道を正すべく鎌倉公方足利氏満—満兼と連携します。一方では、義満も強大化した義弘との対立を画し、義満が義弘を討たせようとしたなどの風聞を耳にした義弘は、下向していた九州から戻り堺にとどまります。義満が相国寺住職絶海中津ぜっかいちゆうしんを使者として上洛を求めさせるも、義弘は対話の席を蹴って交渉は決裂しました。

義満は義弘討伐を決意し、3万余騎の幕府軍を編成、和泉国へ進軍します。義弘は堺城に立て籠り、多数の櫓やぐらを備えた大規模な防御を巡らせ5千余騎で迎えますが、義弘に呼応した反幕府勢力は鎮圧され、足利満兼は上洛に至らず孤立してしまいます。初戦では退けることに成功しますが、次の合戦で幕府軍は櫓を焼き総攻撃を開始、義弘は奮戦の末討死しました。京都を攻めなかった義弘は、義満との和解を願っていたのかもしれませんが。



大内義弘供養塔（堺市・本行寺）  
義弘戦死の地と伝わる



妙光寺（堺市） 義弘が創建した寺院に残る大内菱



伝師成親王の墓（上宇野令）  
堺籠城後、山口へ下向したと伝わる



不動院金堂（広島市）



瑠璃光寺五重塔（香山町）

山口から移築された国宝不動院金堂（広島市）と考えられています。現存する中世唐様仏殿の中で最大のもので、山口地方の建築の特徴が随所にみられます。

1371	今川了俊、九州下向 弘世とともに九州出兵
1375	豊後へ渡海
1377	肥後国で菊池軍に大勝
1379	康暦の政変
1380	この頃豊前守護に任じられる 弟満弘との内戦 弘世死去
1389	足利義満、厳島参詣 義弘上洛
1391	明德の乱
1392	和泉・紀伊守護に任じられる 南北朝合一 李氏朝鮮建国
1393	将軍家一族に准じられる
1394	義満、太政大臣となる
1395	出家する
1397	義満、北山第造営
1398	九州探題支援のため京都をたつ
1399	朝鮮王朝に百済の土地要求 応永の乱 義弘戦死（44歳）

### 菩提寺・香積寺

現存していない菩提寺香積寺こうしゃくじ（開山石屏子介しつぺいすかい）は今の瑠璃光寺の地にありました。その遺構である五重塔は義弘の菩提を弔うために建立されたといわれます。和様を主体とした優美な姿が洗練された京文化の粋を今に伝える、同時代を代表する建築です。

香積寺の仏殿は、天正年間安国寺恵瓊あんこくじえけいによって